

2025年は、私たちの研究と協力の取り組みを具体的な学術成果へと結びつける年でした。私たちの「インドクラス」（インドの文化、環境、技術）は、6つのキャンパスの学生にとって引き続き人気の高い選択科目となりました。2024年に慶應義塾大学で開催された日印科学技術イノベーションフォーラムで選ばれた学術論文をまとめた2冊の出版物の刊行に注力する一方で、220名を超える学生、研究者、実務家、業界リーダー、政府関係者、機関長が参加する第3回科学技術イノベーションフォーラムをインド科学大学院大学（IIISc）ベンガルール校の美しいキャンパスで開催しました。2024年度さくらサイエンスプログラムに参加したインド人学生3名が、研究協力のため慶應義塾大学科学技術センター（SFC）を訪れました。年間を通して一貫した支援を提供して下さった産業界のコンソーシアムメンバーに心から感謝いたします。

講義とクラス @ SFC

● 2025年春学期：

「インドクラス」6年目 — インドの文化、環境、そしてテクノロジー

春学期には、慶應義塾大学の6つのキャンパスすべての学生を対象に、インドと日本の関係に関するさまざまな視点から学ぶ「インドの文化、環境、テクノロジー」と題した特別に企画されたオンライン選択科目を開講します。このコースは今年で6年目になります。イノベーション、最新技術、政治と外交、経済交流、中小企業、開発課題と社会問題、占星術、文化交流、食文化について議論します。一部のキャンパスでは必修科目の授業時間が重なるため、一部の学生はインドの授業に参加できませんでしたが、この6年間で累計800名以上の学生が履修したことになります。

楽天によるイノベーションに関するセッションと、慶應義塾大学の学生ファシリテーターによる特別質疑応答セッションは、実に革新的で魅力的なものでした。学生ボランティアは、白石翼氏が率いる楽天のプロフェッショナルの皆さんと交流することが出来ました。PADECOは、インド以外のアジアにおける経験に基づいた開発活動に関する講演を無償で提供しました。インドと日本の両国政府、そして学术界、産業界からご登壇いただいた企業パートナーおよび著名な講演者の皆様に感謝申し上げます。

● 2025年秋学期：

カリカット国立工科大学：

モハメド・フィロズ・C博士が客員教授として来日。

日印研究ラボは、フィロズ博士および同博士のチームと、2024年のワイナード地滑り事例に関して、インド経営大学院コジコード校、インド工科大学ボンベイ校、及び慶應義塾大学



開発について 講義



PADECO所属でSFC卒業生、開発コンサルタントの宮原光氏が、PADECOでの活動を通して開発の展望について講演しました（2025年5月）。

インド人教授による特別講義（6月）



パルメシュワル・D・ウドマレ教授



スディープ・ミトラ教授

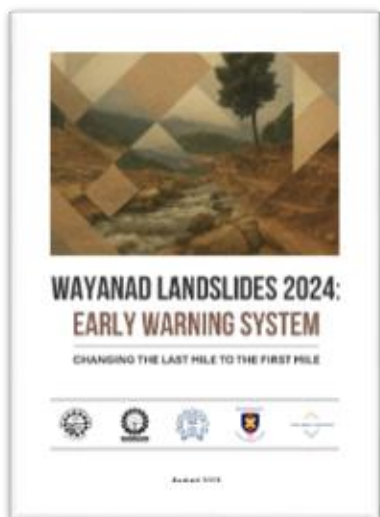


シヴァ・ジー教授

イノベーション講義



白石翼副会長とチームの皆様方は、インドクラス向けに、楽天とイノベーションに関する90分間の特別セッションを企画・実施しました（2025年5月）。



報告書ダウンロードリンク:

https://indiajapanlab.org/wplj/wp-content/uploads/2025/10/Wayanad-Landslide-2024_Early-Warning-System.pdf

「2024年ワヤナード地滑り：早期警報システム—ラストマイルをファーストマイルへ変える」は、インド経営大学院（IIM）コジコード校のインド・日本気候文化センター、国立工科大学（NIT）カリカット校の気候変動レジリエンス・災害管理センター、インド工科大学（IIT）ボンベイ校の農村地域向け技術代替センター、そして慶應義塾大学インド・日本研究所による共同報告書であり、2025年8月に刊行された。

この報告書は、2024年のワヤナード地滑りにおける早期警報システムの課題と問題点を検証するために、4つの大学が共同で取り組んだものである。2025年1月に共同現地調査を実施し、その後、地域住民や関係者へのインタビューを様々な間隔で行った。データ収集の大部分は、4つの大学の大学院生によって行われた。地区行政および地域住民の皆様からの多大なご支援に感謝する。

チームメンバー：インド経営大学院（IIM）コジコード校 インド・日本気候文化センター Salmanul Faris K, Sanjay Krishnan C, Anupam Das 国立工科大学（NIT）カリカット校 気候変動レジリエンス・災害管理センター Krishnadas Sasidharan Nair, Mohammed Firoz C インド工科大学（IIT）ボンベイ校 農村地域向け技術代替センター Shashank Kumar Anshu, Parmeshwar D. Udmale 慶應義塾大学日印研究ラボ セイラ・マリー・チェリアン、川根友、ショウラジブ



FOREWORD

インド大使シビ・ジョージ閣下による序文

2024年7月にケララ州ワイナードを襲った不幸な地滑りは、異常気象に対する私たちの脆弱性の高まりを痛烈に思い起こさせる出来事でした。それは単なる災害ではなく、こうした危機をどのように予測し、備え、対応していくかを再考する必要性を示すものでした。本研究は、災害対策の中心に人々や地域社会を据え、技術的に優れているだけでなく、社会的に意義のある早期警報システムを求めることで、この問題に取り組んでいます。

India-Japan Bilateral Relations and Beyond: Empowering Next Generation: Student Voices and Aspirations

本報告書「日印二国間関係とそれを超えて」は、慶應義塾大学日印研究ラボの研究活動の一環として作成されたもので、日印二国間関係のさらなる強化に向けた学生の声と抱負をまとめたものです。2025年は両国の外交関係樹立73周年にあたるため、本報告書はまず日印関係の歴史的概観から始まり、将来におけるその重要性の高まりを強調しています。報告書の主要部分は、慶應義塾大学の学生、特に2025年度入学の「インドの文化、環境、テクノロジー」コースの学生の視点をまとめたものです。これは、今日の日本におけるインドの認識を反映し、将来の関係強化に向けた協力の可能性のある分野を特定しています。これらの知見は、学生が授業の一環として提出した2ページの要約から得られたものです。本報告書の調査結果は、今後のインド・日本二国間関係の形成に有益な指針となることが期待されます。今年度の報告書は、慶應義塾大学日印研究ラボのインド・日本研究所のセイラ・メアリー・チェリアンによって執筆されました。



報告書ダウンロードリンク:

<https://indiajapanlab.org/wplj/wp-content/uploads/2025/09/India-Class-Report-2025.pdf>

日印研究ラボは、教室での学習にとどまらず、現場に基づいた詳細な共同研究に継続的に取り組んでいます。私たちは、このようなプラットフォームを構築し、様々な分野の研究者と実務家を結びつけることを目指しています。



ロータスプログラム@ 慶應 2025 持続可能性とレジリエンス— 日本のSociety 5.0からの学び

防災、気候変動、持続可能な開発におけるイノベーション：強靱な未来への道筋

2025年6月、科学技術振興機構（JST）のロータスプログラムに基づき、インド工科大学ボンベイ校の**パルメシュワル・D・ウドマレ教授**、インド工科大学グワハティ校の**スディップ・ミトラ教授**、インド工科大学ハイデラバード校の**シヴァ・ジ博士**が日本に招かれました。

2025年6月19日、インド人研究者と慶應義塾大学の学生を対象とした防災に関する合同セミナーで講演を行いました。インド人教授陣は、彼らの発表を通してJST奨学生たちの研究の進捗状況を把握し、今後の研究の方向性に役立ちました。

日本における
人と人との交流



2025年度 慶應義塾大学ロータス研究奨学生 (前列左から)

ジェビン・スルタナ・アーメド（インド工科大学トバゴ校）：「アッサム州における度重なる洪水状況への災害リスク軽減と適応のための技術社会フレームワークの開発：日本のSociety 5.0から得られた教訓の導入」

シャシャンク・クマール・アンシュ（インド工科大学ボンベイ校）：「日本の土砂災害対策戦略のインド西ガーツ山脈の災害レジリエンス強化への適用」

ニディ・プラタープ（インド工科大学ハイデラバード校）：「歴史的地図をツールとして活用したバラナシの都市洪水レジリエンス強化」



伊豆市 x 慶應義塾大学日印研究ラボ 「教育・研究交流連携事業に関する協定書」 調印

慶應義塾大学SFC研究所 日印研究・ラボは、2025年7月10日、静岡県伊豆市と教育分野における包括連携協定を締結した。本協定は、同ラボにとって自治体と年間を通じた事業展開を前提とする初の包括連携協定である。本プログラムは、同ラボ所属の研究者でありXR防災教育の設計・実施を担う高根佐知子所員を中心に展開されている。伊豆市のICT教育環境と、同ラボの国際連携およびXR教育の知見を基盤として実施されている。

2025年12月4～5日

<https://www.india-japan-sti-forum.com>



第3回日印科学技術イノベーションフォーラム 於インド科学大学院大学
(Indian Institute of Science Bengaluru)
テーマ: 日印のシナジーのための革新的ソリューション
(Innovative Solutions for India-Japan Synergy)

学術セミナー参加者の集合写真



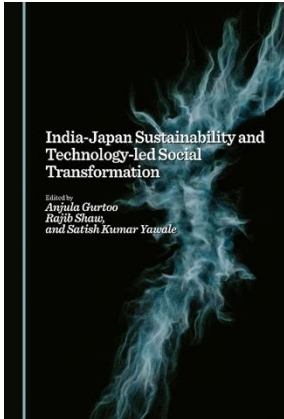
招へいゲストと慶應・インド科学大学院大学のチーム集合写真



本フォーラム企画メンバー

- 第1回と第2回のSTIフォーラムで発表された2つの学術論文編者が、この2025年日印STIフォーラムで正式に発表されました。
- IISc: アンジュラ・グルトウー教授、ミンヌ・マリエッカル氏、ヴィーナ・グルラジャ氏、ポンナンナ・K・A、タスマヤ氏
- IISc 卒業生: サティシュ・クマール・ヤワレ博士 (TERI、ニューデリー)
- 慶応義塾大学日印研究ラボ: ショウ ラジブ教授、川根友上席所員
- Indo-Japan Business Council: シッダールタ・デシュムク会長、アビシェーク・チョードリー副会長
- IISc のアンジュラ・グルトウー教授の Mphasis Lab は、キャンパスでのこのSTIフォーラムの開催に尽力しました。

Anjula Gurtoo, Rajib Shaw, Satish Kumar Yawale eds. *India-Japan Sustainability and Technology-led Social Transformation*. Cambridge Publishing, November 2025



2023
STI Forum

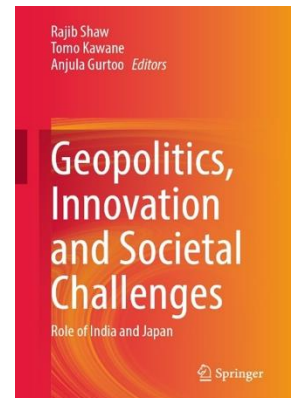
アンジュラ・グルトゥー、ショウ ラジブ、サティッシュ・クマール・ヤワレ編『インド・日本における持続可能性と技術主導の社会変革』ケンブリッジ出版、2025年11月

本書は、インドの伝統的な持続可能性と日本の技術主導型モデルを比較することで、科学、技術、イノベーションがいかに持続可能な開発を推進できるかを考察する。水素燃料、UPI、半導体などの新興技術、インド洋の繁栄と人的交流を通じた国際協力、ネットゼロ目標や脱炭素化を含む気候変動対策という3つの主要分野に焦点を当てている。これらのテーマを鉄道、食品加工、特許、中小企業のイノベーションといった実社会の分野と結びつけ、政策立案者や産業界に実践的な洞察を提供する。持続可能性、地政学、イノベーションを融合させることで、本書はインドと日本の協力がいかにしてより強靱で包摂的な未来を形作ることができるかを明らかにする。

Rajib Shaw, Tomo Kawane, Anjula Gurtoo eds. *Geopolitics, Innovation and Societal Challenges*. Springer Singapore, November 2025

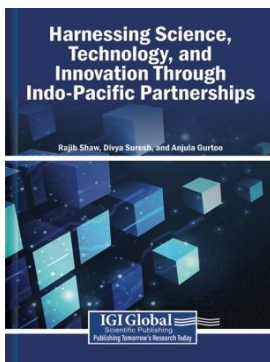
ショウラジブ、川根友、アンジュラ・グルトゥー編著『地政学、イノベーション、そして社会課題』シュプリンガー・シンガポール社刊行、2025年11月

インドと日本の二国間パートナーシップは、インフラ、クリーンエネルギー、先端技術、防衛といった分野における協力的なアプローチを通じて、地域および世界の主要な課題に対処できる可能性を秘めている。本書は、人工知能、再生可能エネルギー、ブルーエコノミー、農村開発、医療、廃棄物管理における共同作業に焦点を当てている。具体的な事例を通して、文化交流、ビジネス関係、さらにはフェミニスト外交政策が両国関係をどのように深めているかを掘り下げている。インドと日本は共に、より強靱で持続可能かつ包摂的な未来を形作っている。



2024
STI Forum

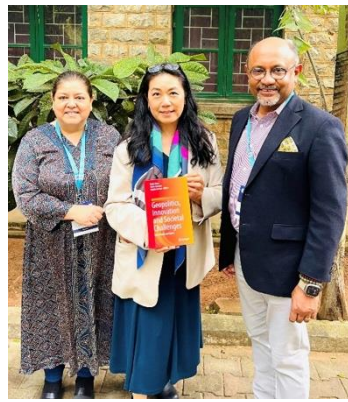
Rajib Shaw, Divya Suresh, Anjula Gurtoo eds. *Harnessing Science, Technology, and Innovation Through Indo-Pacific Partnerships*. IGI Global Scientific Publishing. March 2026



2024
STI フォーラム

本書は、ショウラジブ、ディヴィヤ・スレーシュ、アンジュラ・グルトゥー編著『インド太平洋パートナーシップを通じた科学技術革新の活用』IGI Global Scientific Publishing刊行、2026年3月

政府、大学、産業界間の連携が、安全保障、経済関係、地域間の連結性をどのように強化するかを解説する。公共政策、ブルーエコノミー、社会資本といったテーマを網羅し、政策立案者、研究者、ビジネスリーダーをはじめ、科学とイノベーションが地域開発をどのように支援できるかに関心のある人々にとって、実践的な資料となるであろう。



インド・日本科学技術イノベーションフォーラムの出版物が、インド科学大学院大学（IISc Bengaluru）で開催された2025年フォーラムで祝われた。



第3回日印科学技術イノベーションフォーラムにて編著2冊発表



イベントパートナー
日本より
SEIKO
インドより
Indo-Japan Business
Council (IJBC), プネ



慶應チーム@IISc Bengaluru

Keio University



細谷博美教授



小林博人教授

左より、スジャータ・サウニク、川根友、ショウラジブ教授、アルナブ・ミトラ、アビシェーク・チョウドリー

左より、ショウラジブ教授、ラクシュミ・プリヤ(インド行政官)、スジャータ・サウニク(インド行政官)、インド科学大学院大学よりアンジュラ・グルトウ教授

粘り強さからイノベーションへ：認識から視点へ、アイデアから相互作用へ